

学校だより

令和5年9月29日(金) 第6号

自ら学ぶ生徒・心の豊かな生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校 Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>

「体育祭」と「運動会」

校長 細井博幸

暦では秋分が過ぎ、季節は秋。9月半ばまでは猛暑が続き、いつまで夏なのだろうとも感じていましたが、今週は、朝晩涼しく、日暮れの早さを感じるようになりました。

9月16日(土)には、節目となる第40回体育祭が多くのPTAの皆様の御協力のもと実施されました。4年ぶりに来賓をお招きし、新型コロナウイルス感染症対策による制限のない体育祭となりました。まだまだ暑い時期ではありましたが、当日は、曇りが直射日光を遮り、子どもたちを守っているかのような体育祭日和の一日となりました。子どもたちは、保護者、地域の皆様の見守る中、全力で競技に取り組む姿、自らの役割を誠実に果たそうとする姿、学年を超え熱心に応援し合う姿など、西原中生の素晴らしい姿を見せてくれました。



小学校で勤務をしていた私にとって体育祭の準備段階から関わることは初めての経験でした。そこで、改めて「体育祭」と「運動会」の違いについて考えさせられました。

小学校の運動会は、教職員主導による企画、運営、進行となります。高学年は、係別に運営にも関わりますが、指導は欠かせません。教職員は、保護者に子どもたちの成長をどのように見せるかという点も大切にしていたように感じます。子どもたちもお家の方に頑張る姿を見てもらいたいという思いで、運動会に参加していたのではないのでしょうか。

一方、中学校の体育祭は、生徒が主体となって企画、運営、進行しています。種目も競争意欲が高まる種目が主であり、クラスの勝利を目指しています。また、団体種目も多く、子どもたちが主体的に作戦を考え、練習を重ねるなど、チームワークを高める機会にもなっています。競技だけでなく、運営面においても子どもたちが主体となって取り組んでおり、まさに子どもたち一人ひとりが主役となり、自らが仲間とともに体育祭を作り上げ、勝利を目指して心から楽しむ行事となっています。そうした子どもたちの姿を保護者は静かに見届けるような感じと言えるかもしれません。

どちらが良いということではなく、子どもの発達段階に応じた実施方法の違いではありますが、今、子どもたちに育むべき資質・能力と示されている「自分のよさや可能性を認識」「あらゆる他者を価値のある存在として尊重」「多様な人々と協働」といったキーワードを育む上での、体育祭の価値を改めて感じさせられる機会となりました。

さいたま国際芸術祭2023

Art Saitama 2023 2023.10.7-12.10
おたしたち

さて、話は変わりますが、今年は3年に1度開催される芸術の祭典「さいたま国際芸術祭」が開催されます。今回のテーマは「わたしたち」。旧市民会館をおみやをメイン会場とし、岩槻区でも関連イベン

トが実施されます。画像や動画で芸術に触れることはスマホ等で簡単にできますが、実際に足を運び、本物に触れることも大切かと思えます。3年に1度のチャンス。近場で様々な芸術に触れてみるのはいかがでしょうか。

【岩槻人形博物館で開催されるイベント】

10月3日 10月29日	9:00~17:00	味変企画 <市内文化施設に現代アートのスパイスを>	市民プロジェクト・キュレーター飯島浩二が手掛けるプログラム。 角 文平と市川平による、人形制作の過程で用いられる型枠および型抜き作業から発想を得た、特殊照明装置とベルトコンベアーを雛人形と合わせたアート作品を展示。
11月25日	13:00~ 13:30	作品展示*パフォーマンス①	岩槻区のアートスペース「スペース 845」で滞在制作を行ったアーティストたちが、岩槻人形博物館で作品を発表。
	15:00~ 15:30	作品展示*パフォーマンス②	コン・シデン、阿目虎南、谷口 舞(ゲストパフォーマー)、利根川兼一(コーディネーター)